

フェリーでのんびり高松旅行



高松港の入口にある
赤灯台



▲サンポート高松のシンボルタワーが見えてくれば、高松港はもうすぐ

■3月某日、私たちは高松へ行くことにした。目的はもちろん『うどん巡り』。秘境の地にあることの多い香川のうどん屋なので、これまではクルマに乗り合わせて行くことが多かったが、今回はあえてバスや電車で行こうという事になった。

■このためお店選びにはかなり気を使った。インターネットで検索したところ、ことでん電車とJRが1日乗り放題になるきっぷがあるらしい。今回はこのきっぷを最大限に有効活用することにした。

■当日の朝、私たちは岡山駅に集合した。高松まで行くのなら瀬戸大橋線の快速『マリンライナー』を使えば1時間で到着するが、今回はあえて宇野線とフェリーを使うことにした。今年が宇野線と宇高航路の開通100周年であるのと、フェリーが廃止されるというニュースも流れたため。

■宇野までのきっぷを買い7番のりばへ。すでに宇野行き電車はホームで待っていた。乗り込むと程なく発車。大元・備前西市・妹尾・備中箕島・早島・久々原と停まり茶屋町へ。この区間は『マリンライナー』のほか松山方面行き特急

●『しおかぜ』や高知方面行き特急●『南風』など、四国内各方面への●大動脈となっている。そのため複●数の区間で複線化工事が実施され●た。

●■私たちの乗った電車は茶屋町を●出発すると、瀬戸大橋線から遠慮●するように分かれていき高架の下●をくぐって宇野へと向かう。この●先、彦崎・備前片岡・迫川・常山●・八浜・備前田井と停車し、終点●の宇野に到着する。途中の駅にあ●る行き違い線はかつての名残で非●常に長く、瀬戸大橋が出来るまで●は寝台特急『瀬戸』も急行『鷺羽』●も、そして貨物列車も宇野線を走●っており、四国への大動脈が宇野線●～連絡船ルートだったことを思い●出させる。

●■宇野について私たちは国道フェ●リーのりばへ向かう。駅からはや●や遠いものの、高松に到着した後●の移動に好都合なためだ。フェリー●のりばにはすでにトラックや乗用●

●車などが乗船待ちをしている。私●たちも乗船券を購入し、しばし待●つことに。やがて高松から来たフェ●リーがのりばへ到着する。乗って●いた人や車が下船してから高松行●きの乗船となる。

●■客室は窓側にボックスシート、●中央は前向きの長いすが並んでい●る。私たちは眺めの良い窓側へ。●テーブルもあるのでこれからの予●定を本を見ながら話すにもちょう●ど良い。出航するとすぐに右側に●三井造船が見える。建造中の船が●見えることもあり、玉野はやはり●海の街だと感じさせる。

●■瀬戸内海には多くの島があり、●フェリーからも多くの島が見える。●漁船らしき小船も見られるが、タ●ンカーや客船など瀬戸内海を横切●るように走る船の航路にもなっ●ている。宇高航路はこの“東西”の●航路に対して“南北”に向かって●走っており、海の上の交差点を日●々往来している。

●■景色を眺めつつ話をしていると●やがて高松の街が見えてくる。サ●ンポート高松のシンボルタワー、●先端がトンがった全日空ホテル、●遠くには台形の形をした屋島。高●松港の入口には赤灯台も見え、港●の安全を24時間見守っている。●高松港に降り立ち「さぁ喰うぞ」●と気合いを入れ1軒目を目指す。●その後、時間の許す限り巡り歩き、●結局10軒のうどん屋さんをはし●ごした。(松田和也)

3月22日 宇高航路100周年船上ライブ

■3連休の最終日であった3月22日(月)、宇高航路の開通100周年と宇野～高松間フェリーの末永い運行を願い、宇高連絡船愛好会や玉野市電保存会などが同航路を運行する国道フェリー・四国フェリーの船内でライブを開催した。この日は玉野や高松で活躍するアーティスト4組が参加し、乗り合わせた乗客が景色とともにライブを楽しんだ。



この日行われたライブに参加していた出演者の一人、高松で活躍しているAPPan☆anさん